

軍国主義の精神 色濃く

児童虐待解決に役立つ

群馬大准教授 **藤井 正希さん**



ふじい・まさき 1965年伊勢崎市生まれ。伊勢崎東高（現伊勢崎高）卒。早稲田大学社会学部、同大学院修了。2011年から群馬大社会学部専任講師、14年から現職。専門は憲法学。伊勢崎市。

「教育勅語を教育現場で活用することの是非が国会などで議論されている。政府は「憲法や教育基本法に反しないような形で教材として用いる」とまでは肯定できない」との答弁書を閣議決定したが、これは教育勅語に限らず、ヒトラーの「わが闘争」や、マルクスとエンゲルスの「共産党宣言」であって同じことが言える。配慮すれば、教育現場での活用は可能だ。ただ、それでも活用を



賛成

教育勅語の教材使用

反対

「教育勅語は当時、フランスに留学経験があった井上毅ら俊才とも言うべき人が関与し、英知を絞ってまとめられた。家族愛や人格を育成するために励むことなど、現在の日本に限らず、どの国でも通用する普遍的な道徳について言及しており、教育現場で活用することは賛成だ。ただ、天皇を主権とした明治憲法下で作られたもので、活用する場合は現在の国民主権を基本とする必要がある。教育現場で活用することの効果が得られるか。現在の学校現場でのいじめや児童虐待といった問題は戦後の道徳教育の欠如に原因があるとされている。2000年に児童虐待防止法、13年にはいじめ防止対策推進法が施行されたが、連日のようにいじめや虐待のニュースが報道されている。

賛成

本来であれば、親は自分の身を見ていても子どもを守らなければならないはずだが、親が無抵抗に乳幼児を殺している現状がある。道徳教育をきちんと実施していかなければ問題は解決しない。18年度から小学校で道徳の教科化が始まるが、その際、教育勅語の内容が、きちんとした道徳を兼ね備えることに役立つのではないかと、教育勅語の活用は軍国主義につながる懸念する声もある。別の教材でも代用が可能ではないか。「万一危急の大事が起こつ

弁護士 **田中 善信さん**



たなか・よしのぶ 1943年富岡市生まれ。富岡東高、中央大法学部卒。74年に弁護士登録。群馬弁護士会会長、県警察署協議会会長、会議連絡会会長などを歴任。民事介入暴力事件などを手掛ける。高崎市。

たならば...の部分の問題視する人もいるが、これは危機の際、皆で助け合いの公のために尽くそうという、どの国でも当然のことを言っているだけ。民主主義において、教育勅語を教えることが軍国主義に結びつくことはあり得ない。別の教材で代用可能といった指摘も理解できる。教育勅語の内容を踏襲しながら、別の形式のものでできると良いと思う。

「森友学園で園児に教育勅語を暗唱させていたこと」から、一連の議論が始まった。例えば県内の私立幼稚園で教育勅語を教えた場合、この園に子どもを入れるかどうかは保護者が判断する。強制ではないので、賛同する人とならない人は分かれる。教育勅語を教えることが良い、悪いの議論は別として、今回のように周囲が私立幼稚園の教育方針をいかに非難するのでもないか、この結果園の自主性が損なわれてしまう懸念も忘れてはならない。

「論議」に関する感想、意見をお寄せください。応募先は〒371-8666（個別郵便番号のため住所不要）上毛新聞社「ひろば」宛て

「教育勅語は1948年、衆参両院で排除決議や失効確認の決議がなされた。自民党の本音は教育勅語を復活させ、森友学園のような教育を実現することにあるのは明白。再び教育に取り入れるならば、国会が決議により教育勅語を復活させ、「教育現場での活用」の指針を示すべきだ。その場合、森友学園のような復古的な運用は絶対に許されない。

日本企業と連携して起業家を育成するWILL共同創業者CEOの伊佐山元さん。「古き良きアメリカンドリームがここにある」と起業の最先端を強調。少子高齢化社会に悩む日本の成長のために、イノベーションの大切さを説いた。その上で「挑戦に遅すぎる」とは

GIA米研修

【サンフランシスコ＝富田充慶】「起業家の聖地」と呼ばれる米国のシリコンバレーで研修している「群

アイデア実践へ決意



スタンフォード大を見学する参加者

「60歳を超えて起業する人もあり、年齢は関係ない」と語った。参加者は大手IT企業のフェイスク社と、起業家を多く輩出しているスタンフォード大も見学した。3日間の研修を終え、2016年GIAのヒジネス

「上武絹の道」を解説する小冊子「夢を手繰る糸の物語」が、前橋市における現代美術活動などに、意見を交わした。

「上武絹の道」分かりやすく

高岡、下田と埼玉の本庄、深谷、熊谷の計7市町にまたがる地域。地域ブランド向上や誘客に向けて昨年、同協議会を設立した。国の地方創生加速化交付金を活用し、小冊子を制作。事務局のNPO産業観光学習館（本庄市）が発行し、関係者に配布している。

座談会は、白川さんが1993年に宣言した運動「場所・群馬の時代から八木さんが2012年に前橋弁天通り商店街にオープンしたアートセンター「V-A-r-i-u-s」ができるまでの歴史に触れ、前橋市における現代美術活動などについて意見を交わした。

馬イノベーションアワード(GIA)（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）関係者の一行は29日（日本時間30日）、起業家2人の講義を通して日本の成長のために必要なイノベーションの重要性を学んだ。

起業家講義や大学見学

校生の部）で賞した共愛学園前橋国際大の3人のうち、関口早紀さんは「イノベーションのための探求心と着眼点の大切さを学んだ」と振り返った。

7市町協議会が小冊子

群馬、埼玉両県の絹産産を生かした広域的な観光振興に取り組む「上武絹の道」事業で、上武絹の道運営協議会（会長・岩井賢太郎富岡市長）が小冊子「夢を手繰る糸の物語」を制作した。入門書的な内容で、「上武絹の道」の歴史や関わった人々について解説している。



「志を高く、夢に向かって」と語り掛ける川原さん

スーダンで活動の川原医師

日本外科学会定期学術集会の市民講座が30日、前橋市の昌賢学園まほしホール（市民文化会館）で開かれた。スーダンで医療活動などに取り組むNPO法人ロシナテス（北九州市）を設立した医師の川原尚行さん（51）が、高校生ら約200人を前に講演。「現地で医療を治療をつくるのが日本の地域医療にも役立つと思

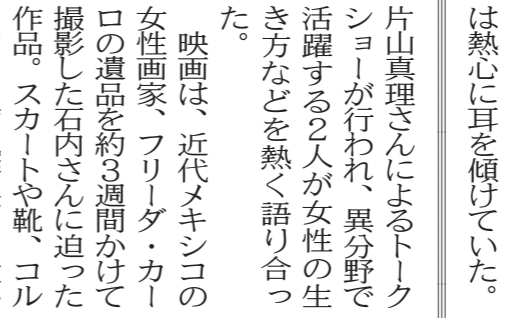
「志を高く、夢に向かって」と語り掛ける川原さん

「現地医療根付く」

川原さんはスーダン日本大使館医務官を辞め、2005年から現地で医療活動を開始した。06年にロシナテス（北九州市）を設立し、巡回診療や給水所の確保、「村落助産師」の育成などに力を注いでいる。

女性生き方熱く

石内都さん、片山真理さん 桐生 ドキュメンタリー上映後にトーク



映画や女性の生き方について話す石内さん(右)と片山さん

映画「フリター・カーロの遺品」石内都、織るように（小谷忠典監督）の上映会が30日、同市の有楽館で開かれた。上映後、石内さんと太田市の現代美術作家、着したドキュメンタリー映

「制度変わらなくては」

近美座談会 作品撤去の白川さん

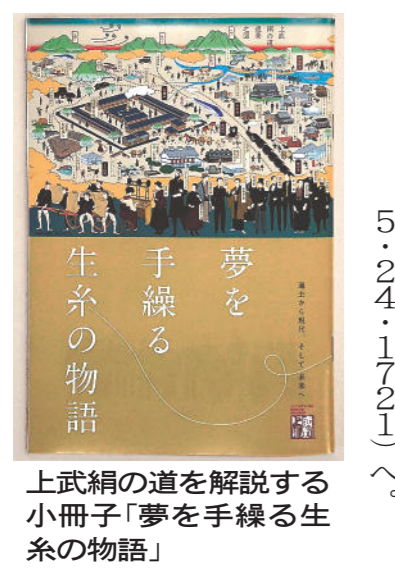


座談会で美術に対する考えを語る白川さん(左)ら

「君は何を目指していますか。それに向かって走っていますか。失敗してもめげないですか」と語り掛けた。

無料法律相談

群馬弁護士会は毎月、県内12会場無料で法律相談を行う。3日の憲法記念日にちなみ恒例企画で、弁護士が相談に応じる。予約が必要な会場もあり。実施日と会場は次の通り。問い合わせは同会（027-233-4804）へ。



夢を手繰る糸の物語 上武絹の道を解説する小冊子「夢を手繰る糸の物語」